



桃三小

令和 4 年度 4 月号 No.605

令和 4 年 9 月 1 日

杉並区立桃井第三小学校

校長 杉 浦 敬

偉大な卒業生の人生に思いを寄せて

副校長 大滝 淳子

厳しかった今年の夏も終わりました。職員室の窓の外からは、虫の音も聞こえてくるようになり、秋の訪れが感じられます。夏休み中はひっそりとしていた学校ですが、今日から2学期を迎え、校庭からも、校舎のあちこちからも、子どもたちの元気な声が聞こえてきて、一気ににぎやかになりました。今年は3年ぶりに行動制限がない夏休みだったため、帰省や旅行などで遠くに出かけることができたのでしょうか、様々な思い出を共有し合っている様子も見られます。毎年のことではありますが、夏休みが明けた学校には、子どもたちによって命が吹き込まれていきます。「学校は、子どもがいてこそ生きて輝く場所になる」ことをこの時期、いつも実感しています。

さて、夏休み中の8月11日、世界的なファッションデザイナーの森英恵さんが96歳でお亡くなりになったという報道がありました。森英恵さんは、4年生の2学期に島根県から東京都に転居し、桃井第三小学校に転入しました。本校の卒業生です。昨年の読売新聞には、森英恵さんの人生がご本人の証言と共に綴られていました。

桃三小に転入した日、森英恵さんは父親が選んでくれたセーラー服を着て登校したそうです。けれども、田舎から転校してきたために「あか抜けた都会の子どもたち」に気後れし、先生に指名されても恥ずかしくて答えられなかったというような微笑ましいエピソードもありました。おしゃれは父親譲りだったようですが、普通の内気な少女だったことに親近感を覚えました。

一方、高校では部活動のバスケットボールに燃え、基礎体力や精神力が鍛えられたとありました。当時の校長先生からは「日々新」という言葉をいただいたそうです。その言葉に込められた「毎日新しい、昨日と違う自分であれ。昨日よりは今日、今日よりは明日と進歩を積み上げてほしい。」という思いが、森英恵さんの礎となっていると書かれていました。また、大学生の時は戦争中だったため、勉強できるような状況ではなかったけれど、図書館で借りた本を読むのが唯一の楽しみだったそうです。その中には、アメリカの小説もあり、夢中になって読んでいたそうです。

西荻窪のまちで小学4年生から青春時代を過ごしてきた森英恵さん。いつでも自分にできること、自分のやりたいことにチャレンジし、自分の可能性を広げていったことで、世界中に認められる地位を築いてこられました。有名なモチーフである「蝶」に込められた「東洋と西洋の文化を融合させ、力強く世界に羽ばたく」という思いをそのまま体現しているかのようです。偉大なる本校の卒業生に哀悼と敬意を表したいと思います。

2学期は、アクティブDAYや学芸会など、大きな行事も控えています。その中で、桃三小の子どもたち一人一人が日々の学校生活を大切に、進歩を積み重ねることで、自分の力を伸ばし、輝いていけるよう、教職員一同、力を尽くして取り組んでいきます。

保護者の皆様、地域の皆様には本校の教育活動に引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

◆自分から仕事をしよう◆

生活指導主任 知念 美和子

学校は集団で生活する場です。高学年なら委員会やアクティブ DAY など学校全体のことを考える場面があったり、学年や学級の間みんなが楽しく過ごすために役割を担っていたり、いつでも人と関わりながら過ごしています。そして、与えられた役割を全力で頑張ることは、誰かのためになっています。そんなふうに頑張っている友達の姿を認めながら、どんな役割でも気持ちよく引き受け、すすんで行動できる児童を育てていきます。

◆クラブ活動◆

特別活動主任 小川 美樹

今年度は、パソコン・写真、卓球、バドミントン、野球・スポーツ、音楽、ゲーム、科学、造形、イラスト・マンガの9つのクラブが開設されました。感染防止に気を付けながら、年間7回のクラブ活動を計画しています。子どもたちは自分の選んだクラブ活動を楽しんでいます。学年や学級を越えた集団でのかかわりを通して、豊かな社会性を育てていきます。